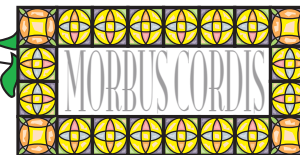


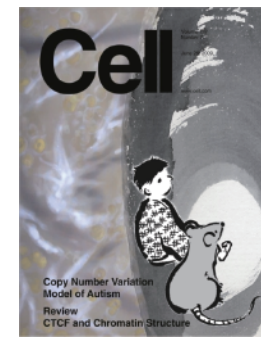


第43回滋賀県立成人病センター研究所セミナー



染色体異常を持つ自閉症モデルマウスの解析

滋賀医科大学 MR 医学総合研究センター
中谷 仁 特任助教



7月25日(水) 午後6時～7時
場所：研究所会議室(1F)

Cellに掲載され表紙を飾ったご研究です。
Cell 137:1235 (2009)

自閉症は、社会性の低下、コミュニケーションの異常、繰り返し行動で定義される発達障害の一つである。先天的な障害であり、生涯治癒される事は無い。病因については諸説あるが、未だ不明である。双生児研究により、遺伝学的背景が強いという事が知られている。特に、染色体 15q11-13 領域の部分重複は最も多く報告されている。我々は、この染色体異常に注目し、同じ部分重複を人工的にマウス染色体に引き起こさせ、自閉症モデルマウスを作製した。このマウスは、ヒト自閉症を彷彿させる行動異常を示した。また、神経細胞のセロトニン伝達系の異常も見いだした。この様に本研究の自閉症モデルマウスは、ヒト自閉症患者と同じ染色体異常を持った唯一のモデルであり、今後の更なる解析が期待される。

主催：滋賀県立成人病センター研究所

問い合わせ先：研究所事務室 (077-582-6034, 内線 8101)

世話人：谷垣 健二 (専門研究員) tanigaki@res.med.shiga-pref.jp

来聴歓迎

